

## 臨床研究・調査の概要

研究課題名	高位脛骨骨切り術後鎮痛効果の比較: 持続大腿神経ブロックと持続内転筋管ブロック
研究の概要	<p><b>【研究の目的・意義】</b></p> <p>持続大腿神経ブロックも持続内転筋管ブロックも下肢手術の術後鎮痛方法として適応があると一般にいられている。人工膝関節置換術の術後鎮痛方法として両者を比較した研究は多いが、高位脛骨骨切り術の術後鎮痛方法として両者を比較した研究はほとんどなく、この術式の術後における鎮痛効果を比較、検討することが本研究の目的である。</p> <p>また、持続内転筋管ブロックは、下肢運動機能を損なわないことが利点の一つであるが、術後リハビリテーションが重要である高位脛骨骨切り術の術後鎮痛方法として用いた場合、術後経過にどのような影響をもたらすかを調べ、考察することは臨床学的に意義があると考えられる。</p> <p><b>【研究対象者】</b></p> <p>当院にて2018年8月から2019年8月までに高位脛骨骨切り術を施行した症例</p> <p><b>【研究の方法】※研究期間を含めて記載</b></p> <p>当院にて2018年8月から2019年8月までに高位脛骨骨切り術を施行した症例を対象とし、術後鎮痛法として関節周囲浸潤麻酔に加え、持続大腿神経ブロックまたは持続内転筋管ブロックを併用している症例の診療録の情報を収集。</p> <p>研究期間は2020年2月から2020年3月を予定。</p>
研究資料の入手・閲覧	<p>研究資料については、研究対象者または当院が認める親族等の方からのご要望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で提供いたします。</p> <p>研究資料の入手・閲覧を希望される方は、次へご連絡ください 富山市民病院 診療科：麻酔科 役職：医長 氏名：黒田康子 TEL 076-422-1112 (代表) FAX 076-422-1371 e-mail <a href="mailto:jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp">jimukyoku@tch.toyama.toyama.jp</a></p>
個人情報の開示に係る手続	富山市個人情報保護条例に規定する手続きに従い、適切に対応いたします。
相談等への対応	研究対象者からの除外を希望される場合、その他当該研究に関する相談等については、関係資料の入手・閲覧と同じ連絡先にご連絡ください。